

【コース】 ヒトの病気2

【コースディレクター】

CD：岡田 浩一(腎臓内科)

【コースの概要】

ヒトの病気2コースは、下記の10ユニットで構成される。

3年次で学んだヒトの病気1と合わせて、このコースを十分に理解することが、5年次に行われる臨床実習の基盤になることに留意し、一層の努力を怠らないようにして欲しい。

＜臓器別の病気＞ 1. 感覚器 2. 皮膚・運動器

＜統合的な病気＞ 3. 感染 4. 免疫 5. 腫瘍 6. 画像 7. 母体・胎児・新生児 8. 小児 9. 精神 10. 救急・麻酔

【目 標】

将来、医師となるために、そして5年次での臨床実習を円滑に行うために、まず、3年次臓器別ユニットの続きとして、感覚器、皮膚・運動器における各領域の疾患を学習し、さらに、3-4年次を通して学んだ病気の知識をもとに、感染、免疫、腫瘍、画像、母体・胎児・新生児、小児、精神、救急・麻酔の各分野において、臓器横断的な学習を行い、臨床医学の基礎的な知識・考え方を修得する。個々のユニットの一般的な目標および具体的な目標については、各ユニットの項を参照のこと。

【学習方法】

1学期には、感覚器、皮膚・運動器、感染、母体・胎児・新生児、精神の5ユニット、2学期には免疫、腫瘍、画像、小児、救急・麻酔の5ユニットについて、主として講義形式で学習する。

【評価方法】

7月、11月に計2回のユニット別定期試験（筆記試験）を施行し、各ユニットの評価を行う。

【指定教科書】

- ◆ コース別指定教科書一覧を参照

【コース】

ヒトの病気2

【コースディレクター】

岡田 浩一（腎臓内科）

【コンピテンス】

2. 基盤となる医学知識と問題対応能力

【マイルストーン】

2-(1). 人体の正常構造と機能の知識を統合し臨床医学に応用することができる。

2-(2). 生体の細胞学的、生理学的、生化学的、分子生物学的メカニズムや個体の反応の知識を統合し臨床医学に応用することができる。

2-(4). 感覚器疾患および全身疾患の病因、病態、診断、治療を概説できる。

【評価方法】

2-(1). 各ユニットの筆記試験（コースとして判定）

2-(2). 各ユニットの筆記試験（コースとして判定）

2-(4). 各ユニットの筆記試験（コースとして判定）

【補習および再評価の方法】

2-(1). 各ユニットの再試験

2-(2). 各ユニットの再試験

2-(4). 各ユニットの再試験